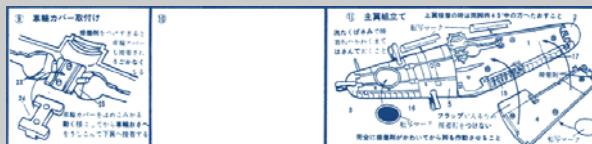


## 第37回 零戦21型( LS )の巻



恐らく殆どの日本人がその名を知っている、「ゼロ戦」こと零式艦上戦闘機のプラモデルは黎明期よりそれこそ星の数程存在しました。かつては男児たる者ゼロ戦(敢えてこう表記します)のプラモデルを作らずに大人になるなど有り得なかつたそうですが、昨今そうとは限らない世の中には周知の通りです。その数多のキット(既に絶版となつたものも含めて)の中で好きなキットを一つ挙げるなら、私はこのLSの21型を選びます(ちなみに次点はニチモの1/48の52型、その次はハセガワのコインシリーズ←我ながら偏っています)。このキットは厳密には1/75スケールで発売当初はそのような表記がなされていましたが、私がこのキットを購入した頃には1/72と表記されていました。一時絶版となっていましたが、現在はマイクロエース(アリイ)で生産されています。このキットを手にしたのは中学生の頃と記憶しています。折しもガンプラブーム真っ只中、1作毎に機構や可動部が目に見えて進化していくガンプラに比べて殆ど可動部分の無い飛行機のディスプレイモデルに物足りなさを感じていました。ちょうどその頃、親戚の叔父さんに色々な飛行機模型の完成品や組立説明図(組み立てた数百機分全てファイルしておられた)を見せてもらう機会があり、このLSの1/72シリーズの存在を知りました。可動部が沢山有るということとT社やH社より割安であることから何とか欲しいと思っていましたが、タイミング良く入荷が有ってとりあえず零戦21型を2機買いました(2コ買ひのルーツはこの辺か?)。

興味深いことに、このキットにははまるべきパーツが存在しない「受け」部分が何ヶ所も存在します。伯父さんの話では、昔はもっと色々なところが可動するようになっていた名残なのだとそうです。当時の私は伯父さんの話と部品形状を元に主脚の折り畳み機構を再現したのですが、大学卒業時に友人にあげてしまい手元にはありません。



### キットデータ

メーカー	LS
スケール	1/72
当時価格	200円(税抜)

最近になって偶然、昔(1/75表記)のこのキットの組立説明図を入手しました。そこには前述の「受け」部分と組み合わさる部品がしっかりと描かれていました。ほぼ私の想像した通りの機構でした。ところでこの説明図の10番は空欄となっています。どうやらこれ以前の版ではミニベビーモーターによるプロペラ可動ギミックが有つたらしいです(それにしてもおおらかな説明図です。今ならクレームの嵐でしょう)。